

Vascular Street Journal

特集

福岡大学の様々な取り組み



FSの製作模様。前面のシールドのカットは手作業で



自身が医学博士でもある朔啓二郎学長がFSの必要性を訴えた



開発を担当した遠藤正浩ものづくりセンター長がオリジナル版を実際に装着



烏帽子会から寄付金を贈呈。朔啓二郎学長(左)と重田正義烏帽子会副会長

新型コロナウイルスの感染拡大の影響下、医療現場では様々な備品不足が深刻化している。医療用フェイスシールド(FS)を独自で製作する福岡大学(朔啓二郎学長)は、関係する地域の医療病院への無料配布を始めた。同大のものづくりセンターが4月に3Dプリンターを使って製作に着手。福岡大学病院の看護師やスタッフの意見を取り入れながら改良を加え、レーザー加工機を使った「オリジナル版」が完成した。5月12日には同大医学部同窓会「烏帽子会」からの寄付金を活用してレーザー加工機を追加購入し、今後は1日500個を目標に製作。医療機関への無償配布を加速する。

福岡大学

医療用FSを地域医療機関に無償配布

FUKUKEI 2020.6

はじめに

福岡大学長 朔 啓二郎

新型コロナウイルス感染症は、私たちの根本的な生活様式に変化をもたらしました。コロナ禍、ポストコロナ、ウィズコロナ、新しい生活様式等、様々な言葉が氾濫しはじめましたが、社会経済全体を巻き込んだ変革が生じました。大学の授業・講義、実習や実験、単位認定のみならず、学生の大学生活の意識、教職員の働き方まで変わってきたのです。医療界においては、外来診療、遠隔診療、基礎疾患の取り扱い、入院患者さんの家族のお見舞方式まで変化しました。医療機関の収入減は著しく、存続すら危うくなった医院・病院が出てきました。福岡大学の新型コロナウイルス対策は毎日のようにホームページで報告しています。上図は「ふくおか経済」6月号に特集していただいた記事(本誌掲載許可取得)ですが、感染予防具としてのフェイスシールドを福岡大学工学部ものづくりセンター(センター長:遠藤正浩教授)で作製、学内や学外の医療施設、薬局、聴覚特別支援学校、保健所など現時点ですでに約8,000枚を提供しました。福岡大学医学部同窓会烏帽子会および福岡大学同窓会有信会から、その経済支援をしていただきました。心から感謝申し上げます。上図は烏帽子会からの資金提供の際の記者会見時の写真です。今回は、工学部ものづくりセンターの紹介をしたいと思います。



センター職員と朔学長（中央）、荒牧副学長、遠藤センター長



ものづくりセンターで、ボランティアで活動されている方々



福岡大学ものづくりセンターの目的と理念

本センターは、学生が主体的に製品等を製作するにあたり、創作活動をおこなうための「ものづくり」の場を提供することを通じて、学生の素材や工作機器に対する工学的感性を養い、体験による高度な知識や技術力を備えさせるとともに、異分野の学生との創作活動において協働性を高めることにより、学生のデザイン力、構想力および実践力を育成し、さらに、地域におけるものづくりまたは産学官連携によるものづくりを支援することを目的として設立された。福岡大学の総合大学という特徴を生かして、文理融合型の創作活動を支援する施設である。学部・学科をまたがった、自分とは異なる考え・発想を持った異分野の仲間とチームを組んで、創作活動を行う環境を提供する。地域の小中学校の教育支援、高校からのインターンシップ受け入れや企業との共同製品開発などにも活用できる。



静かなるボランティア 遠藤教授と朔学長



3Dプリンター



センター内部の様子



プロジェクトチームでものづくり



作業服は貸出可能



福岡高等聴覚特別支援学校に福岡大学がフェイスシールドを贈呈

2020年6月2日

6月1日（月）、福岡大学のものづくりセンターにおいて、福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校の中野康子校長に、本学の朔啓二部学長からフェイスシールドを贈呈（累計約500個）しました。

フェイスシールドは、医療現場だけでなく教育現場でも必要とされています。特に、聴覚に障がいがある方は、顔の表情が重要なコミュニケーションの要素となっており、マスクを着用すると意思の疎通が円滑に行われなくなります。

先般、同学校より教育現場におけるフェイスシールドの有効性に関する情報をお寄せいただきました。生徒さんが少しでもスムーズなコミュニケーションが取れる一助となるよう、本学としてはフェイスシールドの贈呈を決定しました。

なお、本学からはフェイスシールドの組み立て前までの部品を贈呈し、同学校にはその組み立てや同様の学校への配布をご協力いただくことになりました。

「With コロナ」社会を社会全体で乗り越えていく取り組みの一つと考えています。



朔学長（左）から中野校長へ贈呈



遠藤正浩センター長（左）がフェイスシールドについて説明

福岡県薬剤師会に福岡大学がフェイスシールドを贈呈

2020年6月1日

5月29日（金）、福岡大学の加留部善晴副学長（薬学部教授）が、公益社団法人福岡県薬剤師会の事務所（福岡市博多区住吉）を訪れ、原口亨会長にフェイスシールド100個を贈呈しました。今後、福岡県薬剤師会を通じて会員の薬局等に配布される予定です。

医療現場での新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのフェイスシールドをはじめとした備品不足は現在も続いています。薬局においては感染リスクが高い環境にある中、患者さんのことを考慮し、薬局の閉鎖は行っていない状況です。

今般の贈呈にあたって原口会長から、「大変ありがたい。薬局も地域医療の担い手として、医療崩壊を防ぐため営業活動を続けています。今回、福岡大学から物心両面でお支えいただけて感謝しています」と謝辞を頂きました。

福岡大学では、ものづくりセンターにおいてフェイスシールドを製作し、医療機関を中心に無償配布する取り組みを行っています。5月末時点で約3,000個を配布しています。



加留部副学長（左）から原口会長へ贈呈

福岡大学ホームページより

Prof. S. Miura's Commentary

福岡大学工学部ものづくりセンターは、大変ユニークな発想の基に、平成30年度に設立されました。福岡大学の学生なら、学部や学年に関係なく利用することができます。また、修士・博士課程の方や教職員も利用できます。ただし、当センターを利用するには、安全講習（60分）を受講する必要があります。金属や木材加工、電子回路製作などはもちろん、レーザー加工機や3Dプリンタを使った製作、塗装など、幅広いものづくりに対応しています。私も何か作りたくなりましたが、地域貢献としてのフェイスシールド製作の真っ最中ですので今は自粛しています。今回、新型コロナ対策に大きな力を発揮していただき、心から感謝申し上げます。